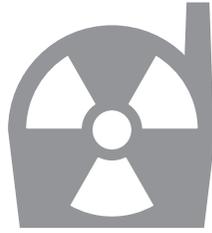


え？原発廃材で フライパン？

■ あなたの周りにも原発廃材が……！



解体された原発の廃材から鍋やフライパンが作られる！？そんな危険なことが現実になるろうとしています。

放射能の「スソ切り処分」が本格的に実施されると、基準値を下回る原発廃材の使い道が規制されなくなってしまうからです。今こそ「待った！」の声が必要です。



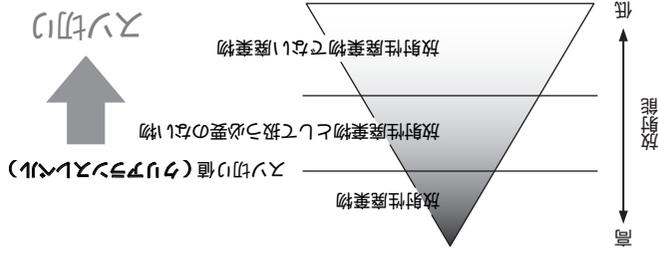
■ 信頼できない安全性

スソ切りの基準値は、被曝量が年間許容量の100分の1になるように設定したと説明されています。しかし、国も認めているように、放射能にはこれ以下なら安全という値はありません。私たちが無用なリスクを受け入れる必要はありません。

■ 業界の自主取組みを解除する動き

法改悪の時に反対運動が起きて、電力業界は「制度が定着するまでの間」は、「事業者が自主的に搬出ルートを把握し、業界内で再生利用する」と約束しました。

しかし、いま「制度定着のためのPR」と称して、防犯灯や橋梁など業界内とは言えないところで原発廃材の利用が拡大されています。



放射能に汚染された廃棄物のうち、一定レベル以下のものを規制から外す制度です。廃炉を円滑に進めるためと説明されていますが、本当の狙いはコストを削減することです。「スソ切り処分」で原発の解体が進むわけはありません。スソ切りされた原発廃材の用途は制限されず、金属をフライパン、飲用缶などに利用することも認められています。

■ スソ切り処分とは……

■ ビジネスに利用しようとする動き

廃炉原発を多く抱える福井県は関西電力と共に、すそ切り金属のリサイクル会社を立ち上げました。

これまでは、原発内で基準値以下であることを検査してから搬出していましたが、新会社では、複数の原発から廃材を集め、溶融処理で放射能濃度を下げてから検査します。その結果、微量ながらも放射能を含む金属が市中で流通することになります。



■ 高校生がPR活動に…？

福井県では制度の普及のために、高校生がすそ切り金属を再利用してハンガーなどの日用品を作製するようすが繰り返し報道されています。

一方的な説明だけ聞かされて、スソ切り推進派に利用されてはいないでしょうか？

■ 制度を定着させない取り組み

多くの原発で廃炉が進む時代を迎え、国や電力業界はスソ切り処分の本格実施を狙っています。「制度が定着した」と言わせないために、

反対の声をあげていきましょう！

子どもたちの未来のために、
原発廃材のリサイクル製品はコメンタ！
みんなも一緒に声をあげてネ！

追加情報は
ここで見てね！ →



末田一秀さん (はんげんはつ新聞編集) の解説

■ 発行：核のこみキャンペーン関西

<http://www2.gol.com/users/amsmith/>